
月

火水 風地

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

月

【Nコード】

N7591B

【作者名】

火水 風地

【あらすじ】

心を綺麗に、清らかにしてくれる月にはどんな恩返しができるのか？

(前書き)

ふと、書いていた

素肌には爽やかな寒さ。

髪を靡^{なび}かせるのは柔らかな風。

自然と深呼吸したくなってしまう。

そんな晩……

月を観ていたんだ。

真珠のような真ん丸の月。

私の目にはそれは青白く見える。

私の心を映しているのかもしれない。

夜空には煌めく星がいくつもあるのだけれど、この晩、一番魅力的に見えるのは月。

青白い月。

私の心の月。

共鳴しているのかも知れない。

共鳴なんかしていないのかもしれない。

それでも月は私の心に類似している。

独りよがりかな？

だとしても気持ちは和らぐ。

神秘的な月は見ているだけで穏やかにしてくれる、私を。

私は恩返ししなくてはいけない、月に。

私は与えられるだけで……

なにも与えることはできずにいた。

ほんの少しでも恩を……

恩は量では表わせないことは知っている。

それでも月から貰った恩は大きなものと分かる。

全ては返せないかもしれない。

でもほんの少しは……

せめてずっと煌めいて見えるように、美しく見えるように……

私は私の月をだんだんと、確実に不可視にしていく空気なんか知らない。

月と空気は喧嘩している。

空気が綺麗な月を隠そうとするから……意図的ではないのは分かっている。

悪いのは私達なの。

私達が空気に色をつけてしまったから。

私達が喧嘩させてしまったから。

恩返しというよりは罪滅ぼしといったほうがいいのかもしいけないけれど。

今からでも間に合うんじゃないかな。

黒を元に戻せるんじゃないかな。

いつになれば月の色は変わるのかな……

（後書き）

これは小説ではないかもしれない

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7591b/>

月

2011年1月23日08時43分発行